

## リモートマラソン「別大チャレンジ2021」

## 一歩一歩マイペースに

別府大分毎日マラソン大会(別府・大分両市)でボランティアをしてきた男性が、来春のリモートマラソン大会「別大チャレンジ2021」(毎日新聞社など主催)にエントリーした。NTT西日本大分支店地域ふれあい促進室課長の佐藤元記さん(60)。リモート大会の舞台で、支える側から「選手」になった佐藤さんは「マイペースに一歩一歩刻みたい」と胸を高鳴らせている。【出来祥寿】



BETSUDAI  
CHALLENGE  
2021



別府大分毎日マラソン大会のリモート大会「別大チャレンジ2021」にエントリーした佐藤さん

佐藤さんは九重町出身。幼いころから地元出身選手が活躍する別大マラソンにはなじみ深く、1979年4月にNTT西日本(当時は日本電信電話公社大分電報電話局)入社後もテレビ観戦などで応援してきた。支店は2015年からボランティアを出し、佐藤さんは広報や地域貢献を担当する促進室に異動後の19年2月の第68回大会から関わるようになった。

## 佐藤さん 運営側から選手でエントリー

## 参加申し込み 15日まで

「別大チャレンジ2021」 別府大分毎日マラソン大会のリモート大会。開催期間は2021年1月30日～2月28日で、期間中に合計42.195kmを走れば「完走」となる。スマートフォンと専用アプリを使い、日本全国どこからでも参加できる。エントリーは15日午後11時59分まで。参加者には大会公式Tシャツとナンバーカードを事前配布する。完走者には抽選で22年2月6日に予定される第70回大会の優先エントリー権や県特産品が当たる。詳細は別大チャレンジホームページ (<https://www.betsudai.com/challenge2021/index.html>)。

初めてボランティアでは36kmのスペシャルドリノク係を担い、目の前を通過する一流アスリートの躍動感に感動した。2回目となった今年2月は、33・5kmの給水を担当。疲れ切って声も出せない選手が水を受け取りながら見せる感謝の表情に「とてもやりがいを感じた」という。

しかし、新型コロナ編の影響で21年大会は1年の延期となり、ボランティアの要請も霧散した。と同時に、大会中に累計42・195kmの距離を重ねれば「完走」となる別大チャレンジが代替開催されることを知り、「左膝を痛めて走れない自分でも参加できる」とすぐに参加を決めた。来年3月末の定年を前に、Tシャツとナンバーカードも記念になると期待を膨らませる。

佐藤さんは「毎日、マイペースで歩いても、週末だけ力いっぱい走って、もいいのがリモート大会の楽しいところ。一緒に『別大』を味わいましょう」と呼びかけている。